

平成31年 第5回教育委員会会議

1 日 時

平成31年4月19日（金）

開会 16時00分

閉会 16時50分

2 場 所

教育委員会室

3 出席者

田中新太郎教育長、金田清委員、横山真紀委員、眞鍋知子委員、西川恒明委員
新家久司委員

4 説明のため出席した職員

新屋長二郎教育参事、臼井晴基教育次長、堀田葉子教育次長、杉中達夫教育次長
塩田憲司教育次長兼学校指導課長、岡崎裕介庶務課長、中村義治教職員課長、
清水茂生涯学習課長、田村彰英文化財課長、村戸徹保健体育課長

5 議案件名及び採決の結果

議案第10号 2020年度使用教科書の採択方針について（原案可決）

議案第11号 石川県公立学校教職員健康管理審査会委員の委嘱（任命）について
（原案可決）

6 報告案件

報告第1号 2020年度石川県公立学校教員採用候補者選考試験等の実施について

報告第2号 平成31年度石川県立金沢錦丘中学校及び石川県立高等学校における入学者選抜結果について

報告第3号 平成30年度全国高等学校選抜大会等における本県選手団の成績について

7 審議の概要

・開会宣告

田中教育長が開会を告げる。

・会議の公開・非公開の決定

議案第10号は教科書採択に関する案件のため、議案第11号は人事に関する案件のため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項に基づき非公開とすることを、全会一致で決定。

・質疑要旨

以下のとおり。

報告第1号 2020年度石川県公立学校教員採用候補者選考試験等の実施について
(中村教職員課長説明)

それでは、お手元の資料11ページをご覧ください。

報告第1号「2020年度石川県公立学校教員採用候補者選考試験等の実施について」、ご説明いたします。

まず、Iの「2020年度石川県公立学校教員採用候補者選考試験」についてであります。(1)の「試験期日等」につきましては、7月20日・21日の両日に筆記および実技試験等、8月3日または4日に、面接試験を行います。また、出願受付は5月9日から30日までとなっております、10月11日に、結果の発表を行うこととしております。

(2)の「受験区分・教科」につきましては、今年度は中・高等学校教諭について教科「情報」を新たに設けました。詳しくは(6)の主な変更点で説明いたします。

(3)「採用見込数」につきましては、5月1日の児童生徒数の確定を踏まえて決定し、5月中旬に県教育委員会ホームページで別途、周知を図ることとしておりますので、次回の報告とさせていただきます。これは、優秀な人材を確保するために、採用見込み数を記載しない実施案内をより早く作成し、大学訪問時に配布したところ、受験する大学生から好評であったことから、受験者の要望に応えるため、できるだけ早く配布を開始するものです。なお、昨年度の小学校教諭、中・高等学校教諭、養護教諭の採用見込数は、合わせて315名となっております。

(4)の「受験資格」につきましては、前年度同様、50歳未満としております。

(5)の「選考区分」につきましては、一般選考に加え、特別選考として4つの選考を実施します。4つは、今年度、新たに設ける特別選考区分Ⅰ「障害のある受験者を対象とした選考」の他、特別選考区分Ⅱ「英語に係る資格を有する英語受験者を対象とした選考」、特別選考区分Ⅲ「正規教員としての勤務経験を有する受験者を対象とした選考」、特別選考区分Ⅳ「民間企業等勤務経験を有する工業受験者を対象とした選考」を実施いたします。

(6)に主な変更点を記載してございますのでご覧ください。

詳細を具体的に説明いたします。まず、一つ目として、先ほど申し上げたように、特別選考区分Ⅰ「障害のある受験者を対象とした選考」を新設いたします。これは、障害者雇用の法定雇用率達成を図る必要があり、対象をこれまでの身体障害者手帳1級から6級を有する者に加え、新たに精神障害者保健福祉手帳、療育手帳を有する者に拡充して、実施するものであります。試験内容は、一般選考と同じです。これまでも受験に当たっては、障害の種類や程度に応じた配慮を行っておりましたが、今年度より、必要に応じて実技試験等の一部または全部を免除することとします。選考は、一般選考と同様の基準で行います。

二つ目に中・高等学校教諭の受験区分において、教科「情報」を新設いたします。これは、新学習指導要領により、高等学校において、2022年度から「情報Ⅰ」が必修科目となり、全ての生徒がより高度なプログラミング技術を学習することとなるため、より内容が高度になった「情報」の授業を指導できる専門性の高い教員を一定程度確保しようとするものであります。

最後に、三つ目の加点制度についてご説明いたします。具体的には、①小学校教諭受験者につきましては、中学校または高等学校の英語の免許状を有する者または英検準1

級相当以上の英語力を有する者に対して、②中・高等学校「英語」受験者については、小学校の免許状を有する者に対して、それぞれ総合点に10点加点することとしております。これは、2020年度から小学校で英語が教科化され、より質の高い小学校英語教育を推進する必要があることから、国が配置増を計画している小学校英語専科指導を担当できる教員を確保するためであります。

また、③中・高等学校「情報」受験者については、他教科の免許状を有する者に対して、総合点に10点加点することとします。これは、先ほど申し上げた必履修科目となる「情報Ⅰ」につきましても、単位数が2単位と少なく、それ以外の教科・科目も指導できる情報の教員が一定数必要となるためでございます。

一枚おめくりいただいて、I-2「2020年度石川県立学校教員（理療科教諭）採用候補者選考試験」についてです。理療科とは、盲学校において、マッサージ指圧師、はり師、きゅう師を養成する課程であり、理療科教諭の採用試験は、今後の退職状況を見据え、昨年へ続き2年連続で実施いたします。この選考試験については、先ほどご説明いたしました教員採用候補者選考試験と同日に実施を予定しております。

I-3「㊦2020年度石川県公立学校教員（栄養教諭）採用候補者選考試験」および次ページのII「2020年度石川県公立学校教員（栄養教諭）採用候補者特別選考試験」につきましては、小中学校において、食の指導や給食の管理・運営に携わる栄養教諭の採用を行うものであります。栄養教諭につきましては、平成18年度より、本県公立学校栄養職員のうち、栄養教諭免許状を持つ者の中から、特別選考により、栄養教諭への任用替えを行ってきたところではありますが、この任用替えの対象となる学校栄養職員が少なくなってきたこと、併せて、現在任用している栄養教諭の退職が今後も見込まれることから、今後は栄養教諭の退職補充という形で、栄養教諭の直接採用を始めることとし、I-3の栄養教諭の選考試験を新たに実施するものです。

なお、IIの栄養教諭の特別選考試験につきましては、任用替えの対象になる学校栄養職員が少なくなってきたものの、まだ数名おりますことから、当面の間、栄養教諭の任用替え試験も引き続き実施するものであります。これら栄養教諭の試験も、教員採用選考試験と同日に実施することとしております。

最後に、選考に当たりましては、スポーツ・文化活動やボランティア活動など実績も考慮し、適切な人物評価となるように工夫を重ねてきているところであり、教員として豊かな教養と専門的知識を有することはもちろんであります。児童生徒に対する教育的愛情をもち、健康でたくましく、指導力・実践力のある人材を確保したいと考えております。

実施の案内配布につきましては、今年度は4月23日、来週の火曜日から配布することとしており、それに合わせて、春の大学訪問も大学生が教育実習に参加する前に、直接、本県の教育や教職の魅力をアピールし、本県の受験を促すこととしております。

大学訪問は、就職支援協定締結大学を含め、これまで訪問している大学に案内し、希望に応じて説明会を行う予定であり、より多くの学生に、本県の教育や教職の魅力をアピールし、優秀な人材の確保につなげていきたいと思っております。4月の大学訪問につきましては、23日、上越教育大学、名古屋女子大学、24日、富山大学、25日、金沢大学、26日、立命館大学、都留文科大学、愛知教育大学を予定しております。また、昨年へ引き続き、実施案内配布開始の連絡を「いしかわ就職・定住サポートセンター（ILAC）」を通じて配信し、学生をはじめ、より多くの方に教員採用試験の情報を提供

できる体制を取りたいと考えております。以上でございます。

(田中教育長)

採用見込み数については、財政当局等と調整が残ってしまっていて、それをいつも待ってから行っていたのですけれど、今ほど説明がありましたように、連休前に少しでも早く公表し、大学回りをしたいということで、数年前から早めています。2段階方式で、採用見込み数はまだこの時点では定められませんが、そんな形で始めた経緯がありますので、その点をご理解を頂きたいと思えます。

【質疑】

(西川委員)

12 ページ I -3 は栄養教員採用試験で、13 ページ II は特別選考試験ですが、これまでは栄養職員が栄養教諭になるということで、あらためて雇用した場合に、合格した人は栄養職員として在籍するのか、栄養教諭という形になるのか。献立とかを今作ってもらっていますよね。

(中村教職員課長)

はい。

(西川委員)

12 ページの I -3 の試験に合格したら献立とかを作らないのですか。

(田中教育長)

一緒です。変わりません。栄養職員も栄養教諭も献立を全部やってもらいます。授業も単独ではありませんけれど、一部、教諭と一緒に食育の授業などをやるというだけで、基本的には栄養管理で、栄養職員と同じ仕事をしてもらうということで変わりません。

(真鍋委員)

11 ページの加点のところですけども、総合点が何点か教えていただけますか。それから、これは受験者に公開する情報かも教えてください。

(中村教職員課長)

まず1点目ですが、総合点 400 点満点に加点します。加点は 10 点です。よって、もし満点の受験者がいると、超えることも可能性としては否定できません。

(田中教育長)

過去にはいませんけれど。

(中村教職員課長)

それから、要項にきっちり総合点も加点の部分も載せて、公表します。さらに自分はこの資格を持っているからということで、申請をしてもらいまして、こちらも確認して加点をすることになります。

(田中教育長)

実は他県でもいろいろとこういうことが始まっていて、石川県でもこれはまさに今人手不足で取り合いの状況になっていて、やはりこういうこととして、石川県にも目を向けてもらって、受験者を増やし、それで、その中から英語の力のある先生を採用する。逆に他県は小学校の受験者に中学校の英語免許を持っている人に加点していることが多いのですが、石川県は逆もやろうということで、中学校の英語を受験する方で小学校の免許を持っていれば、人事異動で小学校の専科教員でも勤務してもらえますので、両面から加点制度で確保していきます。トータルでパイが増えれば人事異動の中で中学校と小学校を回せますので、連携にもなります。小学校で何をやっているか、中学で何をやっているか、お互い勤務し合うことによって小中学校の連携も図れるので、そんな形で一定程度確保していけば、人事でいろいろ連携も取れるというふうに思っています。

(西川委員)

これは新規採用に関してということですか。

(田中教育長)

はい。

(西川委員)

今、採用は小学校の教諭も、中高の教諭という試験区分になっていますよね。それで、合格したとしても、交流は大変私はいいいことだと思うのですが、中には「私は中学校で合格したのに、何で小学校に行かなければならないのか」というような。

(田中教育長)

それも議論しました。手を挙げてもらって、申請して、「私は加点を受けます」と言ったら、当然そういう人事を受け入れてもらうという前提です。

(西川委員)

小学校もあり得ますよということですね。

(田中教育長)

そうです。それで加点するという話ですので。

(西川委員)

ということは、拒否すると加点はなしと。

(田中教育長)

いや、採用してからですから。そういう前提で加点をします。ですから、本人の申請です。該当しても、私は加点は要りませんという人も多分出てくると思います。全員に加点するのではなくて、私は加点を希望しますという。

(横山委員)

とすると、加点イコール受け入れると。

(田中教育長)

いや、誓約書を取るわけではないですけど。

(横山委員)

暗黙的にということですか。

(田中教育長)

はい。選択制になっているということは、そういうことが分かっていたらと思うので。これから国も小学校の5・6年生の専科教員をどんどん定数を増やしていくと言っているんで、当然そういうことになっていくのだと思います。

(金田委員)

中・高等学校英語教諭受験者で、小学校教諭普通免許状を有する者というのは、これは福井大学教育学部は小中高の免許を取れるのだけれども、地元の金沢大学はどうですか。

(中村教職員課長)

取れます。

(田中教育長)

両方持っている人が結構います。

(金田委員)

中高の免許を持ちながら、小学校の免許も取れるようになっているのですか。

(田中教育長)

受験者の中に結構います。ですから、その両方持った人を石川県でたくさん受験していただいてというのが一番いいので、呼び水です。この10点加点はいろいろ議論があったんですけど、県によって300点満点のところもあれば、500点満点のところもあるので、まあ400点で10点で遜色がないというところで10点にしました。

(金田委員)

1割で40点だから、10点で2.5%ですか。

(田中教育長)

これで大幅に優遇して採用しようという話ではないので。要は呼び水です。

(西川委員)

小中高の免許を持っている人をたくさん作ってください。

(金田委員)

金沢大学のかつての教育学部は、小学校の免許も取れるようになったのですか。小中高と英語を。

(杉中教育次長)

小は必須です。小は必ず取らないといけなくて、プラス中高を取ったり、特別支援を取ったりという。

(田中教育長)

あと情報も人材確保です。これから深掘りした授業をやっていく中で、やはり情報の専門家も一定程度いないと。そうかといって、情報の専科の、情報だけしか免許を持っていない人がたくさん要るかといえばそうではないので、要は1学年6クラスぐらい以上の学校でないと、1人専任で配置しても小さい学校は授業数が足りなくなって、手が余ることになります。

(金田委員)

兼務しなければいけない場合も出てくる。

(田中教育長)

だから、他の教科と掛け持ちでやっていただく学校が出てくるので、両方持っていないとやはり人事が回らないということになってくるのです。ですから、先ほど教職員課長が申し上げたのは、一定程度パイを確保したいということです。

(西川委員)

採用試験の会場は例年どおりですね。

(田中教育長)

冷房のあるところですけど、そのうち全部冷房が入ると、試験会場もまた考えないといけないかもしれません。今はこれまでずっと同じ会場で行っていますので。

中学校、県立学校全部にも冷房が完備して、普通教室に全部入ると、別に防音校舎のある加賀地区で採用試験をやらなければいけなくなるという必然性は若干なくなるかもしれませんが、控室から何か、全部普通教室だけで回せるかどうかということもあるので、今すぐ変えるつもりはございません。

報告第2号 平成31年度石川県立金沢錦丘中学校及び石川県公立高等学校における 入学者選抜結果について（塩田教育次長兼学校指導課長説明）

それでは、資料の14ページをご覧ください。

初めに、1の県立金沢錦丘中学校についてですが、適性検査を平成31年1月27日に実施いたしました。

選抜方法につきましては、(2)にお示したように、小学校長から提出された調査書ならびに、主に言語に関する力を見る「総合適性検査Ⅰ」、自然や社会、数理に関する力を見る「総合適性検査Ⅱ」および面接の結果を総合的に判定し、入学者の選抜を行いました。

(3)選抜結果ですが、①に示しましたように、募集定員120人に対して、224人が受検し、うち、120人が合格しております。なお、受検倍率は、1.87倍でありました。

②の郡市別内訳につきましては、金沢市が83人と最も多く、次いで白山市・野々市市が25人でこの3市では計108人になっており、全体に占める割合は90%と、これまでとほぼ同様の傾向となっております。

次に、資料の15ページをご覧ください。

2の石川県公立高等学校における入学者選抜結果についてご報告いたします。まず学力検査等は、資料(1)にお示した期日で実施しました。なお、新たに導入しました追検査等は平成31年3月12日(水)に実施し、受検者は1人でした。

(2)の選抜結果であります、①の公立高等学校全日制については、募集定員7840人に対し、推薦入学等651人、一般入学6555人の、合わせて7206人が合格しました。

なお、欄外の追検査等については、受検者は1人で合格者はありませんでした。インフルエンザにより一般入学の学力検査等を受検できなかった生徒です。

②の定時制につきましては、募集定員480人に対して、191人が合格しております。

③の通信制については、募集定員240人に対して、39人が合格しております。

次の資料の16ページから17ページに全日制を、そしてその次の18ページに定時制と通信制のそれぞれの学校の状況を掲載してございます。

最後に、資料の19ページをご覧ください。(4)全日制の合格者の得点状況でございます。今年度の結果につきましては、①の教科別平均点にお示したように、数学、理科、英語の3教科で平均点が前年度を下回りましたが、国語、社会の2教科では上回り、5教科合計は前年度より3点高い266点となっております。5教科合計の分布は、前年度と比べて200点～299点の層が少し薄くなっておりますが、全体の分布を見ますと受検生の学力を適切に測れる検査ができたものと考えております。

中学校長から少し聞き取りを行っておりますが、問題に対して、「基礎・基本的な問題、応用問題がバランス良く出題されている」「現代的な課題と関連させた問題や日常生活に結びついた問題もあり、出題の工夫が見られる」などの声を頂いております。

来年度の学力検査においても、課題を解決するために必要な活用力など、中学校における授業の中で身に付けるべき学力の方向性を示すと同時に、小学校や中学校で学んだ力を的確に把握できるような出題を目指し、石川県高等学校入学者選抜が円滑かつ適切に行われるように努めてまいりたいと考えております。以上でございます。

【質疑】

(新家委員)

14 ページの錦丘中学校の選抜結果ですけれど、合格者の郡市別内訳で、七尾市、輪島市、県外の子どもたちがいるのですけれども、中学生なのでどのように生活をしていくのですか。

(塩田教育次長兼学校指導課長)

主に転勤等により居住地を変えるというケースが多いです。

(新家委員)

そういうことも願書の中には書かれているのですか。

(塩田教育次長兼学校指導課長)

願書には書かれていませんけれども、聞き取りで確認します。

(新家委員)

別途確認ですか。

(塩田教育次長兼学校指導課長)

はい。

(新家委員)

分かりました。

(金田委員)

まず1点は15 ページのところですが、この募集定員から合格者数が六百三十何人か落ちているわけですが、学級数も落ちています。それに応じて落ちている形であるならば、学校の教員を返さなければいけないという事態には至っていないのですか。

(中村教職員課長)

高校は募集定員で定数が決まりますので。

(金田委員)

だから、それでいくと、学級数が出てくるのではないですか。

(中村教職員課長)

結果として学級数が減っても、募集定員で法定数が決まりますので。

(金田委員)

配置は大丈夫なのですか。同じように定時制の場合も、この仕組みはどうなっているのですか。定時制の場合も、480 人の募集定員でもらいながら合格者は191 人と、これも同じ形ですね。通信もそうだけれども。

(中村教職員課長)

そうですね。教員の配置は同じ形で計算しています。

(金田委員)

それで本県はもらっているわけですか。

(中村教職員課長)

そうです。

(田中教育長)

同じような定員充足率なので、教員の配置に大きな変更はありません。臨任と正規の話はいろいろありますけれど。

(金田委員)

はい。よく分かりました。

もう1点は、中学校の試験結果はどのような傾向でしたか。

(塩田教育次長兼学校指導課長)

中学校の方の試験の平均点につきましては、受験者で申しますと、昨年よりプラス5点、合格者で申しますとプラス3点ということで、ここ数年少し易化傾向と申しますか、少し易しめの問題にして、受験生が取り組みやすいような問題の形にしておりますので、平均点そのものは上がっております。

(金田委員)

高校の方はどうですか。

(塩田教育次長兼学校指導課長)

高校の方はそこにありますように、全体の平均点とすれば、266点ということでほぼ昨年度と同様ですが、正直に言いますと、若干各教科ごとに少しばらつきはありました。例えば、少し分布について説明申しますと、今年の分布を見ると先ほど200～299点が薄くなったと申し上げましたが、逆に50～149点のあたりが昨年と比べると少し増えています。

ただ、この分布は一昨年度とはほぼ同じような分布になっています。原因として分析していますのは、英語の平均点が少し下がっているかと思うのですが、英語についてはここ数年、少しこれからの英語教育のことも考えて、文章量を多くしたりということをやっている、少し問題自体が難しくなっているということがあります。それで、難しくなったからということはないのですけれども、以前から英語に関しては二こぶラクダというとおかしいのですけれども、下位層と上位層が少し分かれるような、あまり正規分布にならないような現状があります。今年については、少し下位層の英語の分布が多かったものですから、それがそのまま全体の分布に影響しているのかなという分析をしています。

(金田委員)

50～150点のこのところに、去年から見たら増えているのですね。

(塩田教育次長兼学校指導課長)

その影響がちょっと英語で出ているのかなと。

(金田委員)

はい。分かりました。そうしたら、上位層も落ちているということですか。

(田中教育長)

わずかです。これは、長い目で見るとそんな大きな変化ではありません。

(金田委員)

そうでしたら別に英語とかそういう意味ではなくて、数学、英語で少し落ちているのだけでも、そういう影響が出ているのですか。

(塩田教育次長兼学校指導課長)

上位層につきましては、数字で見ますと確かに下がっているように見えるのですが、大体ここ数年見ていると、これぐらいの幅で、増えたり減ったりしているものですから、特に大きな変化ではないというふうな捉えをしております。

(金田委員)

はい。分かりました。大体平均点はいい形ですね。

報告第3号 平成30年度全国高等学校選抜大会等における本県選手団の成績について（村戸保健体育課長説明）

資料20ページをご覧ください。平成30年度全国高等学校選抜大会等につきましては、東京都をはじめ22都府県におきまして、平成30年12月23日から31年4月7日までの期間で各競技ごとに開催され、本県より26競技に選手419名が参加いたしました。

成績は、団体では、卓球女子で遊学館高校、ソフトボール女子で金沢高校が3位、バスケットボール女子で津幡高校が4位に入賞する活躍が見られました。

個人では、相撲で金沢学院高校の川渕選手、ウエイトリフティング男子67kg級トータルで飯田高校の山下選手が優勝を果たしました。この他、ウエイトリフティング男子81kg級トータルで飯田高校の宮下選手、女子76kg級トータルで飯田高校の白坂選手、同じく76kg超級トータルで飯田高校の中島選手の3名が準優勝するなど、ベスト8以上の入賞数は、団体6、個人13、総計で19でした。

今後、南部九州ブロックで開催される夏のインターハイや秋の茨城国体など本県高校生の活躍を期待するとともに、県高体連をはじめ関係団体との連携を一層深め、効率的・効果的な運営による運動部活動の充実に努めてまいりたいと考えております。以上です。

（田中教育長）

目立った上下はあまりありませんでしたけれども、個人で2年続けて2人優勝が出ました。

【質疑】

（眞鍋委員）

バスケットボール女子の津幡高校は素晴らしい成績だと思います。全国的にも私立高校が留学生の選手を入れたりしてすごく力を入れている中で、県立で4位というのは素晴らしい成績で、ますます今後を期待したいと思います。

（田中教育長）

地元の生徒だけで勝つ、留学生もいない中で、本当によくやったと思います。公立では、唯一のベスト4ですからここは本当に拍手です。さらに中心選手が残っているので、今年も大いに期待しています。

（田中教育長）

以降の審議は非公開となるため、傍聴人の退席を促す。

議案第 10 号 2020年度使用教科書の採択方針について

塩田次長兼学校指導課長が説明し、採決の結果、全会一致で原案のとおり可決された。

議案第 11 号 石川県公立学校教職員健康管理審査会委員の委嘱（任命）について

中村教職員課長が説明し、採決の結果、全会一致で原案のとおり可決された。

- ・ 閉会宣言

田中教育長が閉会を告げる。